

東京農工大学動物実験計画書

東京農工大学学長 殿

新規 変更・年度更新

提出年月日

2015年4月2日

受付年月日

2015年4月2日

受付番号

27-15

研究課題	解剖学の教育						
研究目的	共同獣医学科2年次学生の解剖学実習の教育						
動物実験責任者名 (選択項目を■)	フリガナ	シバヒデシ			部局名	職	動物実験の経験等
	氏名	柴田秀史			農学研究院獣医解剖学研究室	教授	教育訓練受講の <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	e-mail	[REDACTED]			連絡先TEL:	[REDACTED]	
動物実験実施者名 (括弧内にフリガナ、 選択項目を■)	フリガナ	柴田秀史 (シバヒデシ)			農学研究院獣医解剖学研究室	教授	教育訓練受講の <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	氏名	柴田秀史			連絡先TEL:	[REDACTED]	
	フリガナ	金田正弘 (カナダマサヒロ)			農学研究院獣医解剖学研究室	助教	教育訓練受講の <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	氏名	金田正弘			連絡先TEL:	[REDACTED]	
	フリガナ	[REDACTED] ()					教育訓練受講の <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
	氏名	[REDACTED]			連絡先TEL:		
	フリガナ	[REDACTED] ()					教育訓練受講の <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
氏名	[REDACTED]			連絡先TEL:			
フリガナ	[REDACTED] ()					教育訓練受講の <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
氏名	[REDACTED]			連絡先TEL:			
フリガナ	[REDACTED] ()					教育訓練受講の <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
氏名	[REDACTED]			連絡先TEL:			
実験実施期間	承認後 ~ 20(16)年 3 月				中止・終了等	20()年 月 日	
飼養保管施設 及び 実験室	飼養保管施設	飼養保管はおこなわない			実験室	[REDACTED]	
	動物種	系統	性別	匹数	微生物学的品質	入手先(導入機関名)	備考
使用動物	イヌ	ビーグル	雌雄	10	コンベンショナル	[REDACTED]	
	ヤギ	シバ	雌雄	2	コンベンショナル	獣医学科他研究室	
	ウマ	サラブレッド	雌雄	1	コンベンショナル	未定	
	ウシ	ホルスタイン	雌	1	コンベンショナル	未定	
	ニワトリ	白色レグホン	雌	10	コンベンショナル	未定	
研究計画と方法	研究概要 (研究計画と方法について、その概要を記入する。) 獣医学教育に必要な家畜、家禽の解剖学教育を行う。						
	実験方法 (動物に加える処置、使用動物数の根拠を具体的に記入し、「想定される苦痛のカテゴリー」や「動物の苦痛軽減・排除方法」等と整合性をもたせる。) 導入された上記動物をただちにペントバルビタール過剰投与、あるいはニワトリの場合には炭酸ガスにより安楽死し、そのままの状態あるいはホルマリン固定した状態で各種臓器、器官の観察を学生におこなわせ、解剖学教育を行う。 2年次学生を10班にわけ、イヌ、ニワトリは各班1頭/羽ずつ、ヤギはクラスに2頭、ウマ・ウシはクラスに1頭必要。						

特殊実験区分 (該当項目をすべて■)	<input type="checkbox"/> 1. 感染実験 安全度分類: <input type="checkbox"/> BSL1 <input type="checkbox"/> BSL2 <input type="checkbox"/> BSL3		
	<input type="checkbox"/> 2. 遺伝子組換え動物使用実験 区分: <input type="checkbox"/> P1A <input type="checkbox"/> P2A <input type="checkbox"/> P3A		
	<input type="checkbox"/> 3. 放射性同位元素・放射線使用実験		
	<input type="checkbox"/> 4. 化学発癌・重金属実験		
動物実験の種類 (選択項目を■)	<input type="checkbox"/> 1. 試験・研究	動物実験を 必要とする理由 (選択項目を■)	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検討したが、動物実験に替わる手段がなかった。
	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 教育・訓練		<input type="checkbox"/> 2. 検討した代替手段の精度が不十分だった。
	<input type="checkbox"/> 3. その他		<input type="checkbox"/> 3. その他

想定される 苦痛のカテゴリー (選択項目を■)	<input type="checkbox"/> B. 脊椎動物を用い、動物に対してほとんどあるいはまったく不快感を与えないと思われる実験。
	<input checked="" type="checkbox"/> C. 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験。
	<input type="checkbox"/> D. 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み(長時間持続するもの)を伴うと思われる実験。
	<input type="checkbox"/> E. 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い またはそれ以上の痛みを与えらると思われる実験。
動物の苦痛軽減、 排除の方法 (該当項目をすべて■)	<input type="checkbox"/> 1. 短時間の保定・拘束および注射など、軽微な苦痛の範囲であり、特に処置を講ずる必要はない。
	<input type="checkbox"/> 2. 科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在せず、処置できない。
	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 麻酔薬・鎮痛薬等を使用する。 (具体的薬名及びその投与量・経路を記入: ペントバルビタール 60mg/kg 以上の静脈内投与あるいは腹腔内投与)
	<input type="checkbox"/> 4. 動物が耐えがたい痛みを伴う場合、適切な時期に安楽死措置をとるなどの人道的エンドポイントを考慮する。
	<input type="checkbox"/> 5. その他 (具体的に記入:)
安楽死の方法 (該当項目をすべて■)	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 麻酔薬等の使用 (具体的薬名及びその投与量・経路を記入: ペントバルビタール 60mg/kg 以上の静脈内あるいは腹腔内投与)
	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 炭酸ガス
	<input type="checkbox"/> 3. 中枢破壊 (具体的に記入:) 法)
	<input type="checkbox"/> 4. 安楽死させない (その理由を記入:)
	<input type="checkbox"/> 5. その他
動物死体の処理方法 (選択項目を■)	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 外部業者に依託)
	<input type="checkbox"/> 2. その他 (具体的に記入:)
その他必要または 参考事項	(過去の動物実験計画承認実績、学内の関連委員会への申請状況、飼養保管施設・実験室の承認状況、実験動物の週齢などを記入する。) 2002-2014年度動物実験承認されている。実験動物は、イヌは体重10-15kg、ウシは2歳齢未満、ニワトリは産卵期の成鶏、ヤギ、ウマは提供された年齢のものを使用予定。他の研究で使用後の動物死体を手に入れた場合には、その死体を使用することによって、使用する実験動物数を削減する予定である。

委員会記入欄	審査終了: 20(15)年 4月 17日
	修正意見等
	審査結果 <input checked="" type="checkbox"/> 本実験計画は、東京農工大学における動物実験規程等に適合する。 (条件等 <input type="checkbox"/> 遺伝子組換え実験安全委員会の承認後、実験を開始すること。) <input type="checkbox"/> 本実験計画は、東京農工大学における動物実験規程等に適合しない。

学長承認欄	承認: 20(15)年 4月 17日
	本実験計画を承認します。 承認番号: 第 27-15 号 東京農工大学長